

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おおぞらのいえ 児童発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 22日		～ R8年 1月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	R7年 12月 22日		～ R8年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの活動等のスペースが十分に確保され、事業所内、園庭、敷地内にあるスポーツ交流館で安全に活動することができる。	スペースを二つの部屋に区切り、活動内容や利用児の発達段階に応じてグループに分かれて活動している。指定基準以上の職員配置を行い、活動内容や利用児の発達特性に応じた関わりを実施している。	利用児が必要時にいつでも利用できる個別スペースを設置することはさらなる充実に繋がる。
2	十分なアセスメントを行い、ニーズや課題に応じた個別支援計画書を作成し、個別支援計画に沿ったプログラムを設定している。	十分なアセスメントを実施して利用児に対する理解を深め、こどもと保護者のニーズや課題を分析し、個別支援計画を作成している。個別支援計画に沿った支援ができるよう、発達や利用メンバーに応じた課題を上げ、課題に応じた活動プログラムを設定している。	移行支援についてより具体的な内容をこどもや保護者と共有しながら作成し、実施することはさらなる充実に繋がる。
3	保護者会の中での勉強会や、OBの保護者と現利用児保護者が参加し、こどもに対する対応を学んだり、就学後の情報を得る機会がある。	年2回の個別懇談会、半年に1回の個別支援計画に係る面談、年3回の保護者会(勉強会)、年3回の前年度退所児保護者と現利用児保護者との保護者交流会、月1回の保護者参加の行事などを通して、職員や保護者同士で情報共有できる機会を作っている。	今年度は勉強会の中で就労支援施設の見学を取り入れ、こどもの将来について考えるきっかけや、どのような場所があるのかわかる機会を提供することができた。これからのライフステージに対する障害福祉サービスについて知る機会の提供はさらなる充実に繋がる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児が必要時に使用できる個別の部屋がない。	スペースは広いが、部屋が2つしかない。一つの部屋を使っている時は他の部屋を利用児に提供できるが、二つの部屋を使用している際は、落ち着きたいと思っても選択して使用できる部屋がない。	利用児が気持ちを落ち着かせたり、切り替えたりする際に安全に使用できるスペースの確保。
2	認定こども園や幼稚園等、地域で活動する機会や地域の人が参加できる行事が少ない。	敷地内にある保育室や特別支援学校の分教室と、行事を通して交流を図っている。地域の保育所の園庭開放に参加する等、地域の子ども達と関わる機会を提供していたが、コロナ後から実施できていない。園庭解放の時間変更もあり、活動時間に参加できない現状がある。事業所の行事として地域の方が参加できる機会は作ることができていない。	センター全体での盆踊り大会などの地域住民の参加ができる行事の機会はある。施設として地域住民との関りをもつ機会を作ることが必要。
3	対応マニュアルや避難訓練の実施について、十分な周知ができていない。	必要なマニュアルを作成し、説明・掲示など行っているが、一つにまとまっていない等、見えにくさから十分な周知に至っていない。避難訓練が利用日でなければ経験しない利用児もいる。	利用児が参加する避難訓練を実施しているが、家族も参加できるように避難訓練の実施について検討やマニュアルがすぐ目につく見える化が必要。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 おおぞらのいえ 児童発達支援事業所

公表日 R8年 3月 31日

利用児童数 10名

回収数 8名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8					十分な活動スペースがあるため、スペースを活かした活動内容を設定し、今後も取り組んでいく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8					今後も指定基準以上の配置を行い、個々に応じた支援を行っていく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8					引き続き、落ち着いた活動できる環境、分かりやすい導線の確保、集中して取り組める環境設定に配慮し、活動を行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	8					今後も清潔で心地よく過ごせる環境を維持し、活動内容に応じた環境設定を行っていく。
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7	1				利用児の特性や発達段階に応じた活動内容の設定、関わりを行っている。『どちらともいえない』という意見もあるため、活動や関わり方の意図について保護者と共有すると共に、セラピストとの連携や、研修を通して、さらなる専門性の向上に努めていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					公表しているプログラムに応じて活動内容を設定している。今後も活動の中で5領域の視点を網羅した、個々の利用児に応じた支援ができるよう取り組んでいく。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8					利用児についてアセスメントを実施し、ニーズを聞き取り、課題を保護者と共有し、個別支援計画を作成している。今後も課題に対する取り組みを、目的と意図を示して伝え、よりニーズに応じた具体的な分かりやすい個別支援計画となるよう取り組んでいく。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	1				項目をあげ、具体的な目標に対する支援内容を記載し、面談を通して保護者に説明、取り組み内容を共有して策定をしている。『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、今後も保護者と本児の様子を共有し、課題や取り組み方法を共有しながら、具体的な支援内容の策定に努めていく。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7	1				支援計画の内容に沿ったプログラムを設定している。課題に対する利用児の反応や取り組み状況評価し、保護者に活動内容の様子をお伝えしている。『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、活動の意図や子どもの様子を分かりやすく伝えていく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7			1		毎日ミーティングを行い、チームで活動プログラムを設定している。取り組む活動が重複していないか確認すると共に、発達状況や利用メンバーに応じた課題を上げ、それに合わせた活動プログラムを準備している。『わからない』と感じられている保護者もいるため、引き続き退室時の活動報告やおたよりで取り組み内容がわかるよう発信していく。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	6	1	1			敷地内にある保育室や特別支援学校の分教室と、行事を通じた交流を行っている。行事の該当日に利用ではないなど、交流できない利用児もいる。『いいえ』『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、交流の機会をやるよう検討していく。
保護者への	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	1				事業所を利用していただく前の契約時に、書面を提示し、説明を行っている。『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、より分かりやすい、丁寧な説明を心掛ける。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					支援計画書を提示しながら、支援内容について説明を実施している。皆さんに『はい』と感じて頂いているが、保護者と支援内容を共有し、連携して取り組んでいけるよう、今後も実施していく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8					セラピストに講師を依頼し、就学準備の話をさせていただき、就学の先、将来の生活を保護者にイメージしていただけるよう、就労支援施設の見学を実施した。また、外部のペアレントトレーニングの勉強会についても情報提供を実施した。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	8					受け入れ時、退室時に保護者と欠かさず情報共有を行っている。また、連絡ノートも活用し、共通理解に努めている。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	1				年2回の個別懇談会、個別支援計画作成時の面談、年3回の保護者会を実施し、相談できる機会を作っている。利用日にも保護者と1対1で話す時間を設けている。『どちらともいえない』と感じている保護者もいるため、相談しやすい関係を築くと共に、助言をもらえたと感じられるような支援となるよう、引き続き取り組んでいく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	1				利用児や保護者の思いを受け止め、思いに対して共感的な支援を実施している。時には思いを受け止めながらも、利用児や保護者にとって何が必要か根拠を示して伝え、ライフステージを進むにあたっての、取り組むべき課題と方法について示している。『どちらともいえない』と感じている保護者もいるため、思いや課題、子どもの発達の状況についての共有を深め、利用児や保護者が安心して利用できるよう取り組んでいく。

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8				保護者会は年3回実施し、月1回設定しているお弁当日や行事で保護者同士が交流する機会を設定している。先輩保護者と交流できる機会も年3回設定し、きょうだいをメインとしたイベント開催も年2回実施することができ、満足頂いている。
	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	1			相談や申し入れに対応する体制を整備し、重要事項説明書に記載し、入所時に説明を行っている。申し入れがあった際も、チームで連携し、迅速に対応している。『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、これから分かりやすい説明を心掛けていく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	1			分かりやすい言葉かけ、ジェスチャーや絵カード等、視覚支援を用いて利用児との意思疎通、情報伝達に努めている。保護者とは利用前に利用児の様子を共有したり、退室時に活動の様子を細かくお伝えし、情報共有をしている。『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、引き続き配慮を心掛ける。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6	2			毎月おたよりを発行し、活動の様子や予定について掲載し、情報提供を行っている。ホームページに活動概要や自己評価結果を掲載し、発信に努めている。活動の様子を日々ホームページでお伝えするなどの対応はできていないため、『どちらともいえない』と感じられている保護者もあり、課題がある。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5	3		連絡帳の入れ違いがあった。	個人情報の取り扱いには十分留意し、関係機関との連携やおたよりの掲載についても説明を行い、意向を確認し、書面でサインを頂いている。連絡帳の持ち帰り間違いがあったため、利用児が靴に入れた際の確認を強化している。引き続き、個人情報の取扱いに留意していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	1			マニュアルを策定し、不審者対応などの訓練を実施している。『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、マニュアルや想定した訓練の実施について、保護者の方が実施されていると感じられる情報提供を行う。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	2			併設している障害児入所施設と合同で、毎月避難訓練を実施している。活動時にも設定し、利用児を交えた避難訓練も行っている。『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、発信に努めていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8				入所時の説明や保護者会等で周知し、保護者の方が安心して子どもを預けることができるよう取り組んでいく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	1			怪我等の事故や、体調不良等があった際は、速やかに保護者に連絡している。また、事故発生時の状況を詳しく伝え、今後の対応についても説明を行っている。『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、速やかな対応、状況報告に努め、安心して利用いただけるよう取り組んでいく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8				子どもが安心して通っていると感じていただいている。これからも安心して通える場所、自分を出せる場所、やってみようと思える場所となるよう、従事者の関わりや環境設定、活動内容の充実に取り組んでいく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	1			楽しんで通える場所と評価いただいているが、『どちらともいえない』と感じられている保護者もいるため、楽しい、できたを積み重ね、苦手なことにも挑戦してみようと思える場所となるよう、今後も従事者の関わりや環境設定、活動内容の充実に取り組んでいく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	8				満足頂いているが、今後も保護者と情報共有し、ニーズを引き出し、課題を共有し、支援内容と子どもの変化をわかりやすくお伝えし、満足できる支援となるよう心掛けていく。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
		R8年 3月 31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		十分なスペースがあり、玩具や活動で使用する道具も見えないところに収納し、集中して活動できる環境を作っている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1	指定基準以上の配置を行っている。活動内容や利用児の発達特性に応じて、職員配置を検討し、適切な配置を心掛けている。	職員が休みを取るなど、基準の職員はいるが利用児に対応する上で、危険と感じた職員もいるため、対応方法についての共有が必要。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		バリアフリー化されており、分かりやすい活動導線の確保に努めている。	天井が高く、照明が多いことや、大きな窓があることで、光の刺激が入りやすい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日の掃除だけでなく、定期的に玩具の消毒、マットの洗浄等を行い、清潔を保っている。スペースを2つの部屋に区切り、活動内容や利用児の発達段階に応じてグループに分かれて活動できるようにしている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		2つの部屋に分かれており、両方を使用していない時は、個別の空間を提供している。他児がいる場であっても部屋の隅や洗面台の下、トイレなど一人になりたい時には悪いを受け止め、見守り、気持ちを整理して活動に戻れるような環境を作っている。	気持ちが高まったり、一人になりたいときに利用できる、個別の部屋がない。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		毎日のミーティングで活動内容を設定する際、活動の意図(目的)をチームで共有し、利用児の反応や職員の関わりについての振り返りを行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎年、保護者にアンケートをとり、意向を把握する機会を設け、業務改善に繋げている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎日のミーティングや会議で情報共有、意見交換を行い、業務の改善に努めている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		必要に応じて神戸市のセラピスト派遣を申し込み、利用児についての関わりについて評価を受け、改善に努めている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		利用児への関わりや、発達についてのZOOMでの研修に申し込みを行い、多くの職員が研修を受講できるよう機会を確保している。施設内研修も毎年実施している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		作成し、公表している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		ニーズや課題に基づいて支援計画を作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		会議で検討し、チームでの共通理解に努めている。保護者の意向だけでなく、こどもの最善の利益を考慮した検討を行っている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		支援計画の内容については会議でチームで共有している。計画に沿った支援となるよう、ミーティングで取り組み状況を共有し、チームで支援できるように努めている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々、行動観察を行い、ミーティングで振り返り、チームでアセスメントをしている。適応行動についての状況や対応についての反応や変化などをケース記録に記載し、評価をしている。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		十分なアセスメントを行い、意向についても聞き取りを行い、本人・家族・就学に向け、必要な項目を設定し、具体的な支援内容を設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		毎日、ミーティングで活動内容について話し合い、チームで活動プログラムを立案している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		固定化しないよう、過去の取り組み内容を振り返りかえっている。就園、就学、季節に応じたプログラムを設定している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	個別活動と集団活動を組み合わせ、支援計画を作成し、計画に基づいた支援を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	支援内容や役割分担については前日に確認をしているが、当日も受け入れ時の保護者からの報告や連絡ノートの記載内容について、チームで共有している。また、当日の役割分担についても再確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	毎日、支援終了後にミーティングで支援の振り返りを行い、チームで共有し、より良い支援の実施に努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	活動についての本児の取り組み状況や職員の関わりに対する反応等、記録を取ることを徹底している。記録を振り返って支援の検証を行い、改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	6ヶ月に1回、モニタリングを実施し、計画書に対しての評価、見直しを行っている。毎月、ケース記録の見直しを行う際、短期目標に対しての、評価を実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	関係機関との会議には利用児の状況をチームで整理をし、理解した上で参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	利用児が診療を受けている病院のセラピストと連携し、課題の共有を図り、より専門的な支援ができるよう体制を整えている。また、幼稚園訪問を行い統一した支援が実施できるよう連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	併用しているこども園に訪問へ行き、利用児の様子や取り組み内容を確認している。担任とも情報交換を行い、統一した関わりができるよう努めている。事業所連絡会に参加し、利用児が併用している他事業所とも連携を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	小学校の校長宛に情報提供書を作成し、情報提供に努めている。また、特別支援学校の担任連絡会に出席し、情報共有・相互理解を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	児童発達支援センター主催の研修会に参加し、子どもの対応について事例をあげ相談する等、助言を受ける機会を設けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	同じ敷地内にある保育室や特別支援学校の分教室と、行事を通じた交流を実施している。	コロナ前は地域の保育所の園庭開放に参加し、園児と混じって遊ぶ機会を持つことができていたが、開放時間の変更もあり、活動時間に利用できない現状がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	受け入れ時、退室時に保護者と欠かさず情報共有を行っている。また、連絡ノートも活用し、共通理解に努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	外部の研修会の情報についても随時貼りだし、情報提供を行っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	事業所を利用していただく前の契約時に、書面を提示し、説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	利用児についてアセスメントを実施し、ニーズを聞き取り、課題を保護者と共有し、個別支援計画を作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	支援計画書を提示しながら、支援内容について説明を実施し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	年2回の個別懇談会、個別支援計画作成時の面談、年6回の保護者会を実施し、相談できる機会を作っている。利用日にも保護者と1対1で話をする時間を設けている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		年3回の保護者会（勉強会）、年3回の保護者（前年度退所児保護者と現利用児保護者）交流会、きょうだいを主役とした行事を年2回実施し、交流する機会を設け支援している。	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談や申し入れに対応する体制を整備し、重要事項説明書に記載し、入所時に説明を行っている。申し入れがあった際も、チームで連携し、迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		毎月おたよりを発行し、活動の様子や予定について掲載し、情報提供を行っている。ホームページに活動概要や自己評価結果を掲載し、発信に努めている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取り扱いには十分留意し、関係機関との連携やおたよりの掲載についても説明を行い、意向を確認し、書面でサインを頂いている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		分かりやすい言葉かけ、ジェスチャーや絵カード等、視覚支援を用いて利用児との意思疎通、情報伝達に努めている。保護者とは利用前に利用児の様子を共有したり、退室時に活動の様子を細かくお伝えし、情報共有をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	法人が主催している夏祭り等は地域住民を招待し、実施している。	事業所単独で、地域住民を招待しての行事の実施はしていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		マニュアルを作成し、周知をしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		施設全体では毎月避難訓練を実施している。利用児が参加する避難訓練の設定も行い、避難経路や避難時の対応について訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		面接時に確認をしている。現在、てんかん発作のある利用児はいないが、在籍時は対応マニュアルを作成し、目につく場所に掲示し、迅速な対応ができるようチームで共有する準備がある。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		アレルギーに関しては面接時に確認を行い、対応についても保護者と共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1	安全計画を作成し、心肺蘇生法に係る研修や、不審者対応訓練、リスクマネジメント研修等を実施し、安全管理に努めている。	十分でないと感じている職員もいるため、参加の機会を設定する必要がある。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		安全計画を作成し、家族がいつでも確認できる玄関ホールに掲示し、周知に努めている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットについては事業所内で共有し、チームで再発防止に向けた方策について検討を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		定期的に虐待防止研修の参加、職場内研修の実施を行い、適切な対応をしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		事業所としては身体拘束を行う状況はないが、組織としては身体拘束について研修や検討を実施している。安全確保のため身体拘束が必要な時は、こどもや保護者への十分な説明が必要であることも周知されている。		